

ふるさと米子 探検隊

第9号

大山入門

自然編の巻

2007年3月23日



大山ってどんな山？

編／発行 米子市立図書館

TEL0859-22-2612 FAX0859-22-2637

<http://www.yonago-toshokan.jp/>

大山は中国地方で最も高い山です（山頂は弥山さんちよう みせんといい標高1709m、剣ヶ峰けんがみねが1729m）。

米子市からながめると、富士山のような美しい形をしているため「伯耆富士ほうき」とも呼ばれ、昔から信仰の山として有名でした。大山寺周辺しゅうへんには、昔からの大山信仰をものがたる数多くの文化財が、今でも残されています。

また大山は、たくさんのめずらしい動物や植物が見られることから「動植物の宝庫ほうこ」ともいわれています。春は美しい新緑と野鳥のさえずり、夏はたくさんの花が咲き乱れ、秋は色とりどりの紅葉、冬は真っ白な雪景色と、四季を通じて私たちを楽しませてくれます。

みなさんは、どこからどこまでを大山というのか考えたことがありますか？ 大山ができた時の噴火で溶岩が流れたところを、広い意味では大山といいます。北は日本海から、南は蒜山高原ひるぜんまでの約30km。東は倉吉市を流れる天神川てんじんから、西は日野川までの約45kmという広い範囲はんいです。

探検隊第9号では、大山の自然について学びます。

探検隊の参考資料

図書館には、みんなの探検を助けてくれるたくさんの資料があります。

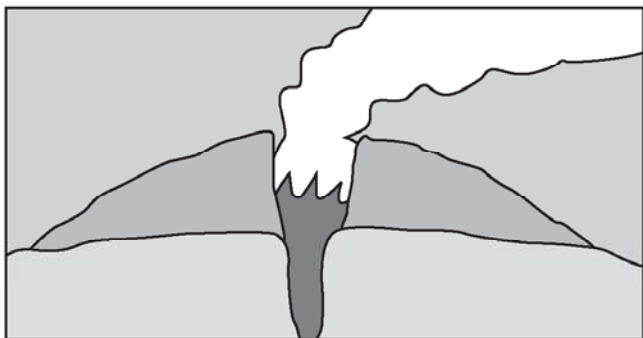
- ・「鳥取県野外学習指導テキスト第8集 大山とその周辺1」
鳥取県教育研修センター／編・刊 1989 09375／T4／8
- ・「自然観察ガイドブック大山寺周辺コース」鳥取県企画部文化観光局景観自然課／
編・刊 2002 Y407／T1
- ・「新・美しい自然公園 大山」日本野生生物研究センター／編
自然公園美化管理財団／刊 1992 Y29／N17
- ・「大山の頂上保護活動10年のあゆみ」大山の頂上を保護する会／共著・刊 1996
Y519／D1
- ・「てくてくマップ大山」清水谷登／他監修 北海道地図／刊 1988 Y29／S33-2
- ・「大山の住人たち」森本満喜夫／著 今井出版／刊 2002 Y47／M1-2
- ・「花ごよみ大山」小西毅／他著 今井書店／刊 1993 Y47／K3

（資料名の後の数字と記号は「請求記号」です（ラベルの番号）。資料の配列場所を示しています。図書館にはこの他にもたくさんの資料があります。）

大山の生い立ち

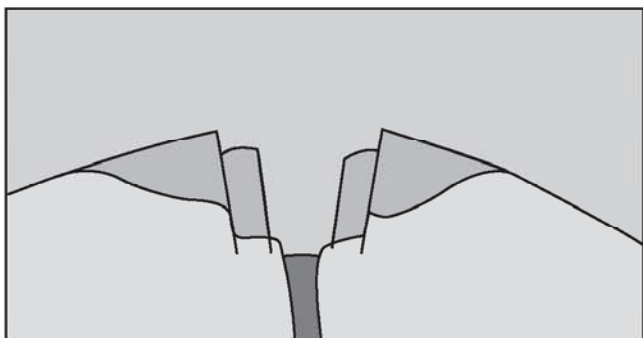
大山は、今から100万年ほど前から2万年前までの間に、2回の大噴火が起こり、今のようになりしました。大山の火山活動が始まる前は、今の米子平野も弓ヶ浜半島もなく、日本海の上にはまだ島だった島根半島が浮かび、今の大山の南に当たる蒜山火山群が活発に活動していたといわれています。

＜古期大山＞



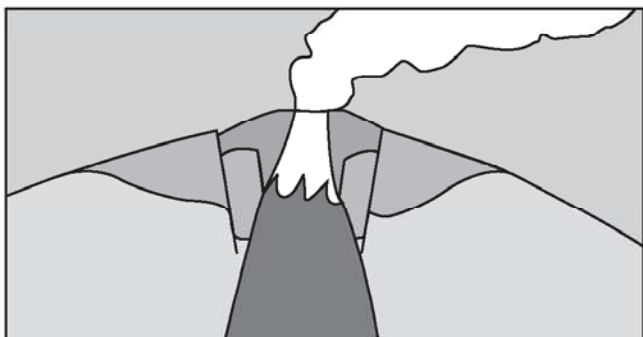
約100万年ほど前、今の大山に当たる場所で激しい火山活動が始まりました。大量の安山岩溶岩や火砕流が流れ出し、今の山の原形ができました。矢筈ヶ山、船上山などの山々です。大山の近くにある孝霊山、鰐拔山などもこの時にできました。

＜大山の大陥没＞



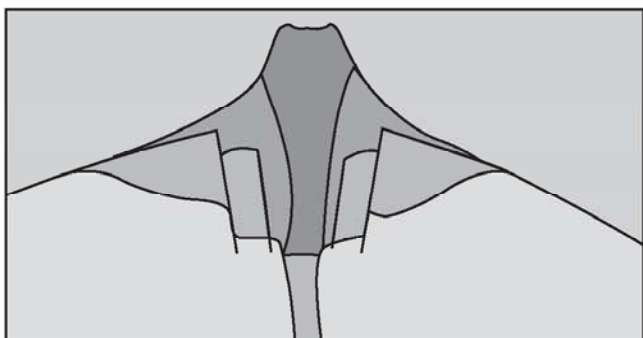
激しい活動期の後、40万年前から30万年前にかけて、大山の火山活動は長い休止期に入ります。ところが洪積世の中期以降、広い地域で大規模な陥没を起こします。この陥没でできた大きな穴をカルデラといいます。船上山などは、この陥没時の外壁に当たるといわれています。

＜新期大山＞



カルデラができた後、およそ30万年前、孝霊山の活動をきっかけに、大山は再び火山活動を始めます。この時も大量の火山碎屑物や火山灰を噴き出して、古期大山の上に降り積もり、現在のような広い裾野をひろげました。この時期以後に作られた大山のことを新期大山と呼びます。

＜中央溶岩円頂丘＞



およそ2万年前、新期大山を形作る最後の時、粘り気の強い溶岩がドームのように盛り上がりました。これが溶岩円頂丘と呼ばれるもので、弥山、三鈷峰、烏ヶ山に当たる峰々です。現在の大山の山の形は、こうして生まれました。

大山の植物

大山は植物の宝庫といわれています。それは氷河時代に北方から移動してきた植物と、暖かい時期に南方や大陸から分布を広げてきた種類が入りまじっているからです。また、大山は、中国山地の山々から離れた独立峰であるため、大山特有の植物を見ることができます。

大山で初めて発見された植物や、大山にしかない植物には「ダイセン」の名前がついているものがあります。

＜ダイセンキャラボク(イチイ科)＞

大山9合目あたりに日本最大の大群落があります。鳥取県の木に指定され、日本の特別天然記念物になっています。秋につく赤い実は甘くて食べられます。



＜ダイセンミツバツツジ(ツツジ科)＞

枝の先に三枚の葉がつくことからこうよばれます。5月ごろ、ピンク色の花を咲かせます。

＜ダイセンクスミレ(スミレ科)＞

スミレには珍しく黄色い花を咲かせます。花は5月に咲き、大山山頂あたりに多く見られます。



＜ダイセンオトギリ(オトギリソウ科)＞

夏に咲く黄色い花が、オトギリソウよりも大きく、大山の7合目以上に多く見られます。傷を治す薬草として知られ、「弟切草」の悲しい伝説があります。

その他にもダイセンオダマキ、ダイセンクワガタ、ダイセンヒョウタンボク、ダイセンヤナギなどの植物があります。

《大山のブナ林》

ブナという木は、クリやドングリの実がなる木と同じ仲間で、秋にできる実は食べられます。野ねずみやリスなどの大好物です。大山のブナ林は、西日本で最大の面積です。また、ブナ林は、緑のダムとも呼ばれ、たくさんの水をたくわえることができるため、人間の暮らしにも役立っています。





(4・5・8Pの絵は、松下順一さんの『山陰鉄道登山旅行繪圖』
『悠遊大山』からお借りしました。)

大山の動物

大山のブナ林は植物の種類が多く、その植物を食べる昆虫などもたくさん住み着いています。そしてまた、昆虫などを食べる鳥や、小型のほ乳類の種類も多く見られます。特に昆虫は、種類や数が大変多く、西日本一の昆虫の宝庫ともいわれています。

大山に住む動物の中には、大山で初めて発見されたものもあり、植物の名前と同じように、「ダイセン」と名前が付けられているものもたくさんあります。

〈ダイセンニシキマイマイ〉

直径が5cmほどにもなる大型のマイマイ。マイマイというのは、かたつむりのことです。

〈ダイセンシジミ〉

シジミ貝のことではありません。チョウの一種で、シジミ貝のように小さくてかわいらしい羽をつけています。

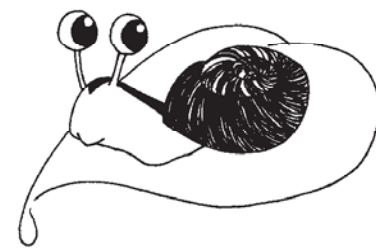
〈ダイセンカミキリ〉

カミキリムシの仲間ですが、背中に白い点々があり、ニセシラホシカミキリとも呼ばれています。暖かいところに住む昆虫です。

その他にも、ダイセンオサムシ、ダイセンコナガムシ、ダイセンツヤゴモクムシなどの昆虫がいます。



シジミ蝶



マイマイ(かたつむり)

《大山の野鳥》

大山は富士山とともに日本有数の野鳥の宝庫だといわれています。その理由は、えさがたくさんあるということ。そして、ブナ林を中心とする森林は、小鳥たちにとって大変住み心地のよいところなのです。

大山で見られる野鳥は、一年中大山に住む留鳥。渡りの中継基地として、大山で一休みする旅鳥。大山を目指して渡って来てある季節を過ごす渡り鳥(夏鳥、冬鳥)、などに分類することができます。日本の野鳥のうち、その約半数の種類を大山で見ることができるといわれています。

左の絵のオオタカは、日本の希少野生動植物種に指定され、レッドデータブックでも絶滅が心配されている鳥です。みんなもオオタカのことを調べてみよう！



オオタカ

大山の自然を守ろう！

《大山隠岐国立公園》

大山は、1936(昭和11)年、「大山国立公園」として国から指定されました。1963(昭和38)年には、隠岐島・島根半島・三瓶山(島根県)、蒜山(岡山県)をいっしょにして、「大山隠岐国立公園」と名前が変わり、公園の範囲もひろがりました。

現在の日本の国立公園は、知床、富士・箱根・伊豆、阿蘇くじゅう、など28ヶ所、この他に55ヶ所の国立公園、309ヶ所の都道府県立自然公園などがあります。

日本のなかにある、原生自然環境保全地域、自然環境保全地域、都道府県自然環境保全地域、国立公園、国定公園、都道府県立自然公園、鳥獣保護区、生息地等保護区、ラムサール条約登録湿地、世界自然遺産、などのくわしいことは、

インターネット「日本の自然保護地域」<http://www.biodic.go.jp/jpark/jparkR.html>

で、くわしく調べることができます。

《自然保護活動》

*一木一石運動 大山は日本百名山にも数えられ、昔から登山者に大変人気のある山でした。しかし、昭和40年代から50年代にかけて、増え過ぎた登山者のために山頂が踏み荒らされ、貴重な高山植物の数が減ったりしました。このことを心配した地元の人たちが集まり、1985(昭和60)年、「大山の頂上を保護する会」が結成されました。踏み荒らされた山頂の緑を元にもどそうと呼びかけ、「一木一石運動」が始まりました。地面の植物が無くなると、地面は雨水や風の力で浸食され、浸食溝と呼ばれる溝ができ、ますます崩れてゆきます。一木一石運動とは、石や苗木を持って山頂へ登ってもらい、それらで浸食溝を埋めたり、無くなった緑を取りもどして大山の山頂を守っていこうという運動のことです。

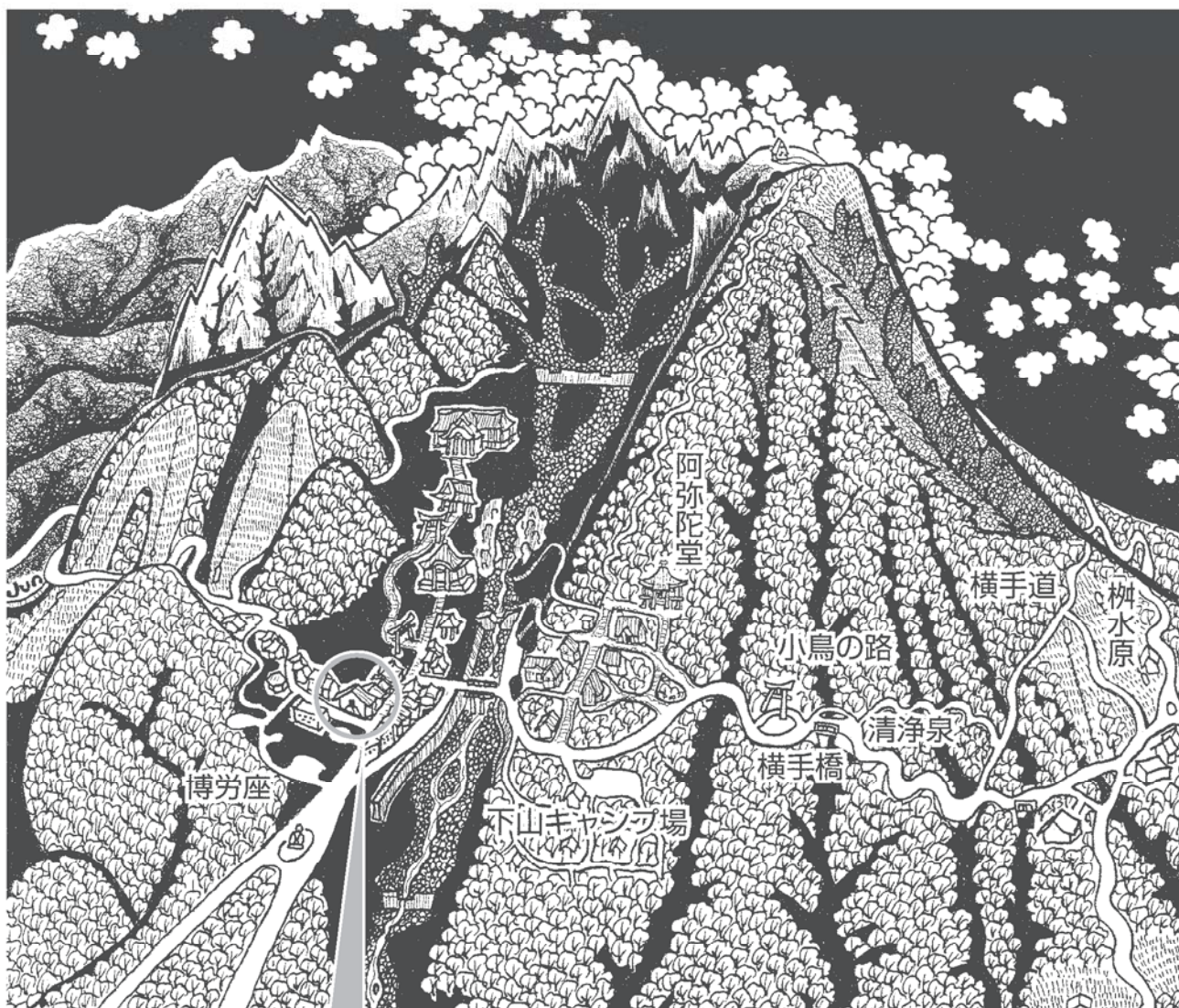
*大山一斉清掃 1977(昭和52)年から、「大山の美化を推進する会」の主催で始められました。新緑の春と紅葉の秋、年2回の清掃には、大山の美しい景観を守ろうと、多くの人たちが参加しています。

*大山オオタカの森 2003(平成15)年秋、大山町内の山林に「大山オオタカの森」が完成しました。標高300~400mに、約100ヘクタールにわたり赤松林が広がっています。ここはもともと、ゴルフ場などのリゾート施設が作られる予定地でしたが、オオタカの生息地であることがわかり、たくさんの人の努力によって鳥取県と大山町が買い上げ、自然を守るために「オオタカの森」として整備したものです。

森の中には観察路や観察標識もあります。小鳥などの種類も多く、バードウォッチングには最適の場所です。



出かけてみよう 大山探検！



○大山自然歴史館

大山自然歴史館は、地質・動物・植物などの大山の自然や、大山寺をはじめとするさまざまな大山の歴史などを学ぶための施設です。

季節ごとの自然観察会にも参加してみよう！

開館時間／9：00 ～ 17：00

(夏季9：00 ～ 18：30)

入館無料

ばくろうざ
博労座駐車場無料（冬季を除く）

〒689-3318 鳥取県西伯郡大山町大山43

TEL:0859-52-2327



<http://daisenrekishikan.pref.tottori.jp/>

(人物・動物のイラストは難波康子さん)